

愛媛県南予山村の隠居慣行と地域活性化

中澤進之右（明治大学大学院）

1. はじめに

愛媛県南予地方の農山村には、後継者が結婚すると親は家長権を譲って隠居し、同一敷地内で別居・別食・別財（家計）を基本として生活する隠居慣行が存在する地域が多く、一般的農村の親夫婦と後継者夫婦の同居を基本とする直系拡大家族とは異なる家族形態が地域慣行として伝承されている。

周知の通り、農山村では若年層の流出一嫁不足一出生率の低下一人口の老齢化一地域生活の困難化という悪循環が生じ、学校の統廃合、深刻な老人問題、自治体自主財源の低下などの過疎に伴う深刻な問題が現れている。しかし、早期代替わりの隠居慣行が残存している当該地域では自治体としては過疎であるが、後継者夫婦が定住している世帯が多く、青年層も地区の主要な役割を担っているなど、地域としては過疎のイメージを脱却している様相が伺える。

過疎地域の再生・振興・活性化のためには、地域の次代を担う青年層が地域に留まり定住していくことが必須であることは言うまでもないが、そのための方策を探る手がかりとして、当該地域に古くから伝承されている隠居慣行に着目したい。

愛媛県南予地方および調査対象の位置



Ⅱ. 調査の企画と実施概要

1. 調査目的

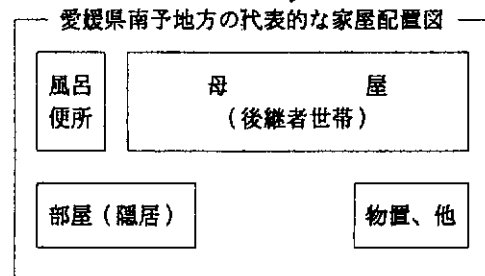
愛媛県南予地方の農山村に残っている隠居慣行の機能を把握することによって、次代の農村家族の在り方を検討するための基礎的資料とする。

2. 調査対象

愛媛県南予地方で隠居慣行が認められる2町4地区（東宇和郡野村町＝長谷・惣財久地区、北宇和郡三間町＝小沢川・土居中地区）を調査の対象地域とし、親世帯と子世帯（夫婦）を調査対象者として選定した。

3. 調査項目

本調査の設問は①個人・家族属性、②隠居世帯と後継者世帯の役割分担、③隠居慣行の是非、④イエと家族関係に関する考え方、⑤日頃の意見・要望を記述する自由回答欄、等を含めて55項目を設定した。



Ⅲ. 当該地域の隠居慣行のプラス機能

- ①隠居世帯（部屋）と後継者世帯（母屋）の相互不干渉によるプライバシー保護機能
- ②隠居世帯の姑と後継者世帯の嫁との主婦権独立による協調・融和機能
- ③隠居世帯と後継者世帯の農業経営の独立採算制による競合・発展と生産性維持機能
- ④隠居世帯から後継者世帯への耕作地の占有権、家長権譲渡による責任感と積極性の喚起機能
- ⑤後継者が地域（ムラ）内の公役や集會・組寄り等の主要な役割を担う若返り、活性化機能
- ⑥隠居世帯と後継者世帯が同一敷地内で生活していることによる両世帯の相互依存機能
- ⑦早期代替わりによる後継者の農業経営の自主独立、近代化、可能性追求機能
- ⑧別居・別食・別財（家計）が基本であるため、嫁姑間の葛藤などの嫁入り障害排除機能

なお、当日は都市部における同居形態の変化と三重県志摩半島の隠居慣行の資料も準備し、当該地域との比較検討を併せて行いたい。